富士連区では、老朽化した富士小学校と富士公民館を複合化に向けての『富士シン学校プロジェクト委員会』が 2024 年2月1日発足しました。この委員会は、連区内の各団体役員、保護者の皆様、富士小教職員、全町内会への回覧による一般募集での参加者にて構成いたしました。

委員会の会合は５回を重ね、更に現複合化施設への視察も行い、応募書類を作り上げて６月６日に一宮市教育部総務課に提出いたしました。各学校区からの応募書類は審査を受け8月下旬に対象校の決定結果が発表となります。

尚、「シン学校プロジェクト」の詳細につきましては、一宮市の HP をご覧ください。

提出応募書類

◎応募内容

応募校：	一宮市立富士小学校
提案者：	富士シン学校プロジェクト委員会

（１） 実施方針

シン学校プロジェクトに参加して現在富士連区が抱えている課題を解決するためには、あらゆる世代や環境の人から意見・協力を得ることが重要であると考え、意見交換を重ねてきた。

従来の枠組みに捉われない新たな学校のあり方がどのようなものであるか深く考慮するとともに、地域の誰もが利用でき、人と人とを繋ぐ施設にするためにはどうすべきか、引き続きアンケートやヒアリングを行いたい。

そのようにして得られたアイデアや意見を活かし、行政とも積極的に連携して新時代のモデル校となれるよう取り組む。

（２） 課題の認識

・小学校、児童館・児童クラブ、公民館など、施設が点在しているため、地域の連携を図りにくい。

・小学生の保護者世代は児童が卒業した後、連区の住民としての関わりが希薄になり、地域の繋がりを保つ活動の担い手確保が困難である。これは、地域全体で次世代を育てていくことが困難であることを意味する。そのため、各世代(小学生やその家族以外の世代)が利用し、交流できるような施設が必要と考える。
・現在の小学校にはバリアフリー機能がないため、身体に障害のある児童の受け入れが困難である。また、学校施設を利用するイベント(夏祭りなど)で障害のある人が安心して利用することができない。この点において災害時の避難所としても不十分である。同様の問題は老朽化した公民館にも当て嵌まる。
・児童に対しきめ細やかな対応が求められているにも関わらず、学校職員の働き方改革とも相まって人員不足に悩まされている。

（３） 理想とする学校の姿

・複合施設とすることで、地域住民(児童の保護者を含む)がボランティア活動など(校内清掃、草むしり、花壇の整備、クラブ活動の講師、保健室登校の児童や登下校の見守り)で小学校、児童に関わりやすくなり、学校職員の実務的な負担が減る。
・保護者は学校を身近に感じることができ、学校とコミュニケーションも取りやすく、子育てに対する不安や学校への不安が軽減される。
・複合施設全体を学びの場として捉え、多様な学習を展開できる環境に整備することで、多様な児童へのきめ細やかな対応が期待できる。
・児童の保護者ではない世代も小学校に関わることで、地域で子どもを育てるという意識が生まれる。児童も地域の活動に関わりやすくなり、自らが必要とされていることを認識して、自己肯定感を育むことができる。
・児童は自身の保護者、教職員以外の人と関わる機会を持つことで、コミュニケーションや多様な人との接し方を経験できる。さらにバリアフリーであることは身体障害児の受け入れも可能にし、児童は多様性のみならず他者への思いやりも学ぶことができる。
・SNS の普及により小学校児童にも必要となる情報リテラシーの教育、さまざまな場面で求められるデジタル環境に柔軟な対応ができる設備や空間が必要である。

・普段から地域住民が学校でのボランティア活動に参加したり施設を利用したりすることで、災害時の拠点としての認識を深めることができるし、お互いに助け合える場とすることで社会福祉への貢献が期待できる。

（４） 実現方策

小学校、コミュニティセンター(公民館機能を有する)、児童館を併設し、複合施設とする。

多様な世代の利用を想定して、以下の設備を提案する。(設備によっては飲食できることを前提とする。)

・地域住民と学校が共有できる設備

・図書館、家庭科室(災害時炊き出しに利用できることも念頭におく)、会議室、多目的室、音楽室

小学校へのセキュリティー面を考慮しつつ、児童と地域住民とが最大限に交われる空間。

・フリースペース

飲食可能。こども食堂やふれあいカフェ等、地元の野菜などの販売、バザー、学生などの自習スペースとして利用。

・和室

高齢者その他のサークル活動のほか、一般利用として未就園児の保護が集える場所として想定。

・健康促進設備

これらに加え、数十年にわたって利用する施設であることを念頭に、どのようなハード面が必要か、深く検討を重ねる必要がある。

施設の維持管理は民間事業者との協働(PFI 手法)を提案する。コミュニティセンター、共有部分は有料とし、維持費の確保を図る。

各施設を併設することにより、あらゆる世代、世帯が利用できる拠点となりうる。もちろんバリアフリーに配慮した施設とする。

併設のメリットとして、高齢者を含む地域住民が活動している現公民館でのサークル活動と児童のクラブ活動などとを連携することで、異世代間の交流を図り、地域住民の学校ボランティア活動参加への意欲を促すことができる。

また、ボランティアの拠点として利用することで、物理的、心理的距離が縮まり、小学校の要望にフレキシブルに対応できる。

災害時の拠点としての機能が発揮できるよう、収容人数の想定、多様な人の受け入れを想定した設備、備蓄品の保管場所などを考慮する。

（５） 検討経緯・参画意向

令和６年２月１日に第１回検討会議を実施。地域づくり協議会、町会長会、公民館、老人会、児童育成協議会、民生児童委員、主任児童委員、小学校より校長先生ほか教職員、保護者の計 14 名参加。

３月 23 日第２回は上記に加え、回覧等で地域住民からも会議の参加者を募った。計 24 名参加。

こののち各団体より富士小学校プロジェクト委員会(17 名)を確定し、5 月 11 日、26 日、29 日、6 月 1 日に応募内容について検討する。

5 月 23 日に高浜市地域交流施設たかぴあ（高浜小学校に公民館機能・体育センター機能・児童センター機能を併設する複合施設）の視察を行った。

5 月 26 日には富士小学校の学校公開日を見学した。

ワークショップについては、10 年、20 年後、あるいはその先の未来へとつながる学校づくりとは何か、どのようなことが必要になるかを話し合いたい。

またそのために各方面の専門家や既存複合型施設校に携わった方々のご意見を学べる機会を得たいと考えている。

そのワークショップの開催には、既にプロジェクト組織に参加協力している地域づくり協議会、町会長会、公民館、老人会、児童育成協議会、民生児童委員、主任児童委員、小学校教職員や保護者はもとより、地域に住むあらゆる住民に対し情報を伝えて参加を呼びかけ、住民の新しい施設に対する期待と協力を求めるものにしていく。